

図 1

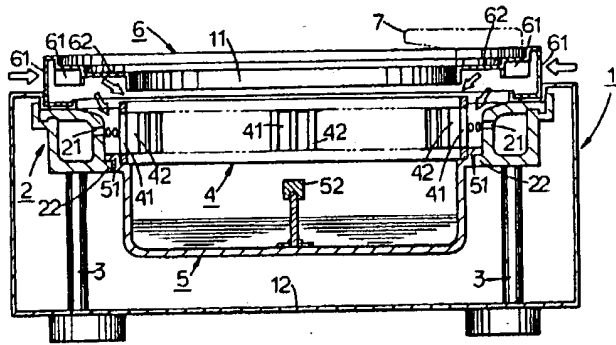


図 3

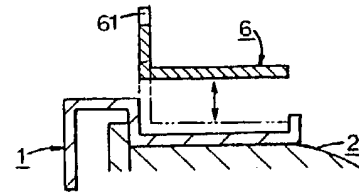


図 4

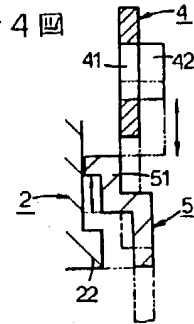
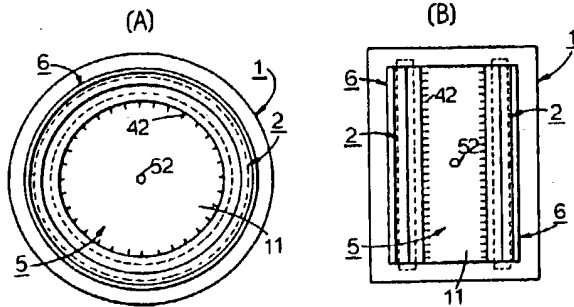


図 2



⑫ 公開特許公報(A)

昭61-147024

⑬ Int. Cl.⁴

F 24 C 3/04

識別記号

庁内整理番号

B-7116-3L

⑭ 公開 昭和61年(1986)7月4日

審査請求 未請求 発明の数 2 (全4頁)

⑮ 発明の名称 ガス調理器

⑯ 特 願 昭59-267883

⑰ 出 願 昭59(1984)12月19日

⑱ 発 明 者 鷹 和 夫 横浜市港北区高田町964番地
⑲ 出 願 人 ユニオン商事株式会社 愛知県西春日井郡豊山町大字豊場字大山43番地
⑲ 出 願 人 株式会社鷹製作所 横浜市緑区佐江戸町405番地
⑳ 代 理 人 弁理士 高橋 三雄

明 細 書

1. 発明の名称

ガス調理器

2. 特許請求の範囲

1. 器体の中央部に開口した熱口の周囲から略水平方向に燃焼炎を形成するように燃焼管を設備し、この燃焼管のガス噴出孔の前方に輻射板を設けて熱口に輻射熱を生成するようにしたガス調理器において、輻射板を器体の上方から嵌込み直立させることが可能な係止部を燃焼管の下部付近に設け、輻射板をこの係止部以外の他の部材と接触しないようにしたことを特徴とするガス調理器。

2. 器体の中央部に開口した熱口の周囲から略水平方向に燃焼炎を形成するように燃焼管を設備し、この燃焼管のガス噴出孔の前方に輻射板を設けて熱口に輻射熱を生成するようにしたガス調理器において、輻射板を器体の上方から嵌込み直立させることが可能な係止部を水受皿の上部付近に設け、輻射板をこの係止部以外の他の

部材と接触しないようにすると共に、水受皿を取付ける取付部を燃焼管の下部付近に設けたことを特徴するガス調理器。

3. 発明の詳細な説明

イ. 産業上の利用分野

本発明は、ガス調理器に関する。さらに詳しくは、輻射板を備え輻射熱を生成するようにしたガス調理器の構造の改良に関する。

ロ. 従来の技術

輻射板を備え輻射熱を生成するようにしたガス調理器の従来例としては、器体の中央部に開口した熱口の周囲から略水平方向に燃焼炎を形成するように燃焼管を設備し、この燃焼管のガス噴出孔の前方に輻射板を設けて熱口に輻射熱を生成するようにした構造のものが知られている。

この従来のガス調理器においては、輻射板が燃焼管のガス噴出孔の前方において器体等に固定されているものである。

ハ. 発明が解決しようとする問題点

この従来のガス調理器によれば、輻射板が燃焼管のガス噴出孔の前方において固定されているために、輻射熱を利用する調理目的のみしか使用できず、また、輻射板を含めた器体内部の清掃が困難であるという問題点がある。さらに、輻射板が器体等に固定されていることにより、加熱された輻射板の熱が器体等に伝導するため、器体周りを熱くし調理作業を困難にするという問題点がある。

ニ．問題点を解決するための手段

本発明は、前述した従来例の問題点に鑑み、輻射熱を利用する調理以外にも使用でき、しかも、器体内部の清掃が容易なガス調理器を提供することを目的とする。さらに、生成した輻射熱が器体周りに伝導しないガス調理器を提供することを目的とする。

この目的を達成するため、本発明に係る一つのガス調理器は、器体の中央部に開口した熱口の周囲から略水平方向に燃焼炎を形成するように燃焼管を設備し、この燃焼管のガス噴出孔の

め、輻射板を器体の上方方向へ着脱自在とし、輻射板を着装した輻射熱の生成と輻射板を脱装した輻射熱の排除との双方の加熱態様を採ることができるものである。着装された輻射板は、係止部に直立しており、係止部以外の部材と接触せず、器体等への熱の伝導が防止される。また、輻射板の係止部を水受皿に設けることにより、水受皿に熱を放散して器体等への熱の伝導防止効果を向上させるものである。

ハ．実施例

以下、図面に示した本発明に係るガス調理器の実施例を説明する。

第1図は、第2図(A)に示すように、器体1の平面形状が円形の場合の実施例を示したもので、環状の燃焼管2を用い、器体1の中央に熱口11を開口してある。

燃焼管2は、架台3によって器体1の底部12に支持されて熱口11の周囲に設備されており、その内側の周面には一定間隔でガス噴出孔21が穿孔され、熱口11に向けて略水平方向

前方に輻射板を設けて熱口に輻射熱を生成するようにしたガス調理器において、輻射板を器体の上方から嵌込み直立させることが可能な係止部を燃焼管の下部付近に設け、輻射板をこの係止部以外の他の部材と接触しないようにしたことを特徴とする構成を採用する。さらに、他の一つガス調理器は、器体の中央部に開口した熱口の周囲から略水平方向に燃焼炎を形成するように燃焼管を設備し、この燃焼管のガス噴出孔の前方に輻射板を設けて熱口に輻射熱を生成するようにしたガス調理器において、輻射板を器体の上方から嵌込み直立させることが可能な係止部を水受皿の上部付近に設け、輻射板をこの係止部以外の他の部材と接触しないようにすると共に、水受皿を取付ける取付部を燃焼管の下部付近に設けたことを特徴する構成を採用する。

ホ．作用

前記構成の輻射板の係止部は、輻射板を器体の上方から嵌込み直立させることができるた

へ燃焼炎を形成するようになっている。

輻射板4は、一定間隔で穿孔された通孔41と一定間隔で立設された起立片42とを有し、燃焼管2と同様に環状に形成され、燃焼管2のガス噴出孔21の前方、即ち、燃焼炎が形成される方向にガス噴出孔21と対向して設けられている。

この輻射板4は、水受皿5の上縁に係止部として設けた段部51に係止するようになっており、環状の輻射板4を器体1の上方からこの段部51に嵌込めば、段部51に輻射板4が直立するようになっている。直立した輻射板4は、段部51のみによって支持されており、器体1等の他の部材と一切接触していない。そして、水受皿5は、燃焼管2の内側の周面の下部に取付部として設けた突出部22に段部51が係止し取付けられるようになっている。また、水受皿5の底部の中央には、棒52が立設されており、この棒52を摘んで水受皿5、輻射板4を一体的に上方へ引上げることができるように

なっている。なお、水受皿5を設けない場合には、燃焼管2の内側の周面の下部に輻射板4の係止部として段部を設ければよい。

器体1の上部には、載置台6が載置されており、この載置台6は、外側の周面に二次空気口61が穿孔され、上面に階段部62が設けられている。この載置台6の階段部62は、上面に五徳7を載せることができ、また、二次空気の流入方向を輻射板4方向へ方向付け、燃焼効率を向上させると共に、輻射板4の冷却をも行う。なお、載置台6は、第3図に示すように、器体1の上部に対して着脱自在である。

第2図(B)は、器体1の平面形状が方形の場合を示したもので、燃焼管2は、直状のものを、熱口11の両側に対向設備してある。

以上、図示した実施例の外に、輻射板4の係止部として、段部51に代えてL字状のブラケットを水受皿5の上部に取付ける実施例が考えられる。同様に、水受皿5の取付部として、突出部22に代えてL字状のブラケットを燃焼

管2の内側の周面の内側の下部に取付ける実施例も考えられる。また、環状の輻射板4ではなく直状の輻射板4を用いた場合には、輻射板4の直立を確保するため、U字状のブラケットを用いたり、段部51をU字状に形成したりする実施例も考えられる。

ト、発明の効果

以上のように、本発明に係るガス調理器は、輻射板を着脱自在としたので、輻射板を脱装することにより、輻射熱を利用しない調理にも使用することができる効果がある。また、輻射板を脱装することによって、輻射板をはじめ器体内部の清掃が容易になる効果がある。さらに、輻射板が係止部以外の他の部材に接触していないため、器体等に熱が伝導せず、調理作業の環境を良好にする効果がある。そして、係止部が水受皿に設けられている場合には、この熱が水受皿に吸収されるため、熱伝導防止効果が向上する。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明に係るガス調理器の実施例を示す断面図、第2図(A)、(B)は器体の平面形状を示す平面図、第3図は載置台の着脱状態を示す断面図、第4図は輻射板の着脱状態を示す断面図である。

1・・・器体 2・・・燃焼管
4・・・輻射板 5・・・水受皿

特許出願人 ユニオン商事株式会社
株式会社 鷹製作所

代理人弁理士 高 橋 三 雄



PAT-NO: JP361147024A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 61147024 A

TITLE: GAS COOKER

PUBN-DATE: July 4, 1986

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

TAKA, KAZUO

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

COUNTRY

UNION SHOJI KK

N/A

KK TAKA SEISAKUSHO

N/A

APPL-NO: JP59267883

APPL-DATE: December 19, 1984

INT-CL (IPC): F24C003/04

US-CL-CURRENT: 126/39J

ABSTRACT:

PURPOSE: To provide a gas cooker which is easy to clean and used for cooking with or without using radiation heat by installing a radiation plate inserted into the body of the cooker from above in such a way that the plate is settled

vertically at the place where is made to hold it and near the combustion tubes and the plate does not contact with any other part.

CONSTITUTION: The radiation plate 4 is settled at the terraced part 51 of the upper edge of the water bowl 5. The ring shaped radiation plate 4 is inserted into the terraced part 51 from above and stands vertically. The plate is only supported by the terraced part and does not contact with any other part

of the cooker 1. As a rod is vertically placed at the center of the bowl, the bowl and plate are possible to pull up together upwards by picking the rod up.

As the plate is easy to put on and take off, the cooker is used for cooking without using radiation heat by taking off the plate and cleaning of the cooker inside is easy.

COPYRIGHT: (C)1986,JPO&Japio